

ゆりのき



No.22 2025 年 7 月 15 日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も[公式 HP](#)で閲覧できます



TOPICS

- 教員インタビューリレー ● 第 23 回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
- 第 24 回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● 雑司が谷キラキラ市 ● お知らせ

Interview



教員インタビュー リレー

Vol.2

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。

Q.1 研究や専門について教えてください。

大学では「発達心理学 1、2」、「発達臨床支援」、「学校カウンセリング基礎論（幼小中高）」などを担当しています。私は、本学の学部・大学院を修了してから日本女子大学児童研究所（1928 年開所～1995 年閉所、総合研究所として再発足）、東京都立教育研究所、日本子ども家庭総合研究所に勤務し、そこで行ったチーム研究の影響を受けながら、私の研究テーマや専門分野がつけられてきたように思います。主なチーム研究としては、「自己概念の形成過程に関する縦断的研究」、「高校生の意識と動向に関する縦断的研究」、「育児不安に関する臨床的研究」などを研究してきました。私自身のテーマとしては、「極低出生体重児（出生体重 1500g 未満児）の発達」に関する研究を 25 年ほど続けておりまして、私のライフワークとなっています。



家政学部児童学科
教授 安藤 朗子

Q.2 研究を始めたきっかけはなんですか。

ライフワークとなっている「極低出生体重児の発達」に関する研究については、日本子ども家庭総合研究所勤務時代に、母子愛育会愛育病院で小さく生まれた子どもたちのフォローアップ外来で乳児期から中学生時期までの長期発達フォローアップや保護者の相談に携わったことが契機になりました。日本の新生児医療は、世界のトップレベルであり、新生児の救命率は非常に高いのですが、その後の発達や支援のあり方等について未知の部分も多く、長期にわたるフォローアップ健診や研究が必要とされています。現在、私自身は、小さく生まれた子どもの保育所生活についての調査研究を行っています。

子どもの発達や心理臨床に関する研究。特に極低出生体重児の発達の縦断的・臨床的研究。また、親の育児不安等に関する研究を行っている。

Q.3 ご自身の研究が、実際の子育てや教育、社会の中でどのように活かされることを期待しますか。

日本の低出生体重児（出生体重 2500g 未満）の割合は約 1 割、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中で 2021 年は 2 番目に高い割合です。一方で 25～44 歳の女性の就業率は約 8 割となり、就学前児の保育所入所は過半数を占めています。乳児期から保育所に通っている極低出生体重児は、体格が小さく、病気にかかりやすく、発達がゆっくりである子どもが多く、さまざまな場面で保育者からの個別支援を受けながらも、集団生活の中でよい刺激を得て順調に成長していきます。子どもたちが、よりよい保育所生活を送れるように、子どもや保護者、そして保育者にとって必要な支援モデルの構築に貢献したいと思っています。

Q.4 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

私は、「育児は、育自」という言葉が好きです。子どもは、大人が忘れてしまった感性をもち、関わる大人に多くの驚き、面白さ、気づきを与えてくれます。私は、関わってきた子どもたちから沢山のことを教えてもらってきました。最近、「育児はつらい、大変」といったイメージが前面に出ているようで大変残念に思います。子どもに関わり、自分を磨き、輝いていただきたいと思います。

Next

➡ 次回は人間社会学部心理学科 塩崎 尚美教授をご紹介します。

第23回子育てサイエンス・カフェ報告（5月24日実施）

歌ってつながる・歌ってひろがる



時代や地域を超えて「つたわり」「ひろがり」ながら変容していく歌もあります。誰もが知っている「お寺の和尚さんが スイカの種をまきました」は、「芽が出て膨らんで 花がさいて 枯れちゃって」「忍法使って 空飛んで 東京タワーにぶつかって 雷ゴロゴロ じゃんけんぽん」など多様なバージョンがあります。スカイツリーが登場するバージョンもあります。江戸時代には「かゝごめかゝごめ かのなかへとりは いついつねやま よあけのばんに つるつるつッべつた」と記録されている『かゝごめかゝごめ』も、今では「か〜もめかもめ（鳴）」という歌い出す子どももいますし、「いついつジェーアール（JR）」「つるとカラスがすべつた」と歌う子どももいます。楽しく遊びながら歌うわらべ歌だからこそ、子どもの自由なイメージや生活世界が映し出されるのかもしれません。

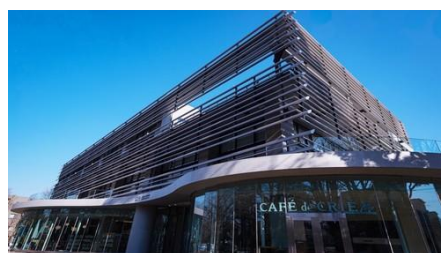


ところで、園部三郎（1979）は、言葉と音楽が未分のまま包括されている状態を「原音楽」と呼びました。「生まれながらの音楽性（絆の音楽性）」を持つ赤ちゃんに対して、普段よりもやや高めのピッチでゆっくり抑揚をつけて対話する「マザリーズ（対乳児発話）」の効果を否定する人はいないと思います。

今回のカフェでは、試みに内外の研究結果を基に赤ちゃんの泣き声と「マザリーズ」のピッチ幅をピアノの鍵盤で提示してみました。そこからわかったことは、養育者が赤ちゃんの泣き声を包み込むようにピッチの幅をもたせることで赤ちゃんに自分の声が届きやすいような工夫をしていることです。「マザリーズ」が持つこのような「how to 的ではない自然な営み」は、子守歌の構造にも内在しています。小泉（2003）は、子守歌の機能の一つとして「恨み節」を挙げていますが、対して岩田（2003）は「子守りのつらさを吐露して自らを慰めるのではなく、それらをくた>に変換することによって癒されるのであり、そのことがそれを聞く子どもをも癒すことになる」と解釈しています。

「マザリーズ」も子守歌も、音楽療法的に言い換えるならば「1/f ゆらぎのある場」で養育者も赤ちゃんも心地よく過ごす仕組みがあることになります。養育者にとって「歌ってつながる」のは、赤ちゃんとの関係性だけではなく、日常的な「子育てへのモチベーション」ということになるのかもしれない。そして、「歌ってつながる」ことによって、さらに関係性が「ひろがり」「ふかまる」のではないのでしょうか。

（家政学部児童学科 教授 根津 知佳子）



「歌ってあそぼう わらべ歌！」の様子



板橋区立中央図書館連携事業「歌ってあそぼう わらべ歌！」は、わらべ歌をテーマに遊ぶ小学生対象のイベントです。次回は 11/8（土）に開催予定です。子どもたちが歌う歌声は、録音されイタリアのボローニャ市立サラボルサ児童図書館に共有し、HP で紹介されています。

サラボルサ児童図書館

「POLPA」プロジェクト HP

>RimPOLPA Itabashi

（イタリア語・わらべ歌掲載あり）





次回の子育てサイエンス・カフェは！



第24回 子育てサイエンス・カフェ

大切ないのちを守るための講座

夏のレジャー何に気をつけたらいいの？



水の事故を防ぐ

—カヌーから学ぶ安全管理／危機管理—

日本女子大学人間社会学部現代社会学科 教授 大沼 義彦

スポーツ社会学の分野で、1)スポーツメガイメントと社会変動、2)地域スポーツに関する研究を行っている。
地域調査の中で手作りカヌーの実践に出会い、授業科目として扱う。その後、カヌー部顧問を務める(1997.4-2014.3)。

夏は海や川でレジャーを楽しむ、そんな季節です。夏の活動は楽しい一方、水の事故も毎年発生しています。
今回は、カヌーというスポーツで用いられている安全管理／危機管理の考え方や救助・行動の原則を学びます。
危機的状況にどう向き合えばよいのか？ 何から始めればよいのか？ これらは「もしも」に備えること、災害の際に
どのように行動したらよいのかにも通じます。皆さんと一緒に考えていければと思います。

より深い学びとなりますよう、講座の途中でクイズ形式の参加型ワークをご用意しています。
可能な範囲で結構ですので Zoom のボタンからご回答ください。



日時

2025年 **7/19(土)**
10:30~12:00

Zoom によるオンライン開催です。
ご自宅からお気軽にご参加ください。

申込み

QR コード または URL からお申込みください。
<https://forms.office.com/r/h1H2sVRG7k>
お申込み受付後、Zoom 詳細情報をメールにて
お送りいたします。

▼申込み



第25回子育てサイエンス・カフェは 11/22(土)。心理学科青木みのり教授によるお話です。どうぞお楽しみに！

Event / <雑司が谷 キラキラ市> 学生参加レポート

6月8日(日)に、雑司が谷の大鳥神社
にて「雑司が谷キラキラ市」が開催されました。

雑司が谷にお住まいの方々と楽しみながら、
地域みんなで神社を盛り上げようというこの取り組みは、近隣で
お店をされている方々を中心に企画されたものです。今年で 2
回目の開催となり、本学からは、児童学科の学生 8 名、社会
福祉学科の学生 3 名がボランティアとして参加しました。



児童学科の学生た
ちは浅野由子准教
授の指導のもと、折
り紙や七夕飾り・短
冊制作、風鈴作りな
どができるワーク

ショップコーナーを、また社会福祉学科の学生たちは黒岩亮子
教授の指導のもと、ヨーヨー釣りや型抜きが楽しめるミニ縁日
のお手伝いを担当しました。



本学の取り組み以外にも、東京音楽大学の学生有志によるト
ロンボーンの生演奏や、お笑い芸人による楽しいネタが披露さ
れました。また、ステージの合間には紙芝居屋さんの巧みな話
術に子どもたちが夢中になる様子も見られるなど、子どもたちの
笑顔が絶えない素敵な一日となりました。



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

心理相談室のご案内

＼日本女子大学 心理相談室公式ホームページをリニューアルしました！／

ご相談内容や、ご相談の流れ、スタッフのご紹介など
よりわかりやすくご説明しています。



日本女子大学 心理相談室



今年度より、ニーズの多い水曜日・土曜日の開室時間を 18 時まで延長して
地域の皆様の心の相談をお受けしています。(月曜・日曜・祝祭日は閉室)

たとえば…

子どもの発達や成長が気になる
不登校、集団になじめない
子育ての悩み
対人関係、親子関係
気持ちを整理したい
自分の性格、将来・生き方
自分を見つめたい など



相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室 **03-5810-1507** (直通)

受付: 火曜～金曜 9 時～17 時 / 水曜 10 時～18 時
土曜 9 時～18 時

